

第68回 埼玉県美術展覧会審査評

【第1部 日本画】

審査主任 さいとう ひろやす
齊藤 博康

第68回日本画部門の一般・会員の出品点数は184点で、例年に比べて若干の減少がありました。

日本画の画材は岩絵の具、にかわ膠などデリケートな扱いを必要とする材料です。それを習得し、思い通りに表現する為には多くの時間を要します。

その上で多くの方々が挑戦することになります。今回展でも16才から91才までの幅広い年齢層から出品があり、新鮮で意欲的で多様な作品の競い合う場となりました。

それらのなか審査員一同、慎重に審査を重ねて128点を選定いたしました。

時代時代において、ある傾向の作風が目につくように思います。出品作品は、それぞれの美意識で、それぞれに表現されており、真摯に制作されている姿が目には浮かびます。

厳しいことですが互いに刺激し合うことで更なる制作の糧にして役立てていただくことを望みます。

・埼玉県知事賞

とき きおく
「刻の記憶」

さいとう ゆう
齊藤 由

清涼な空気感漂う画面です。それぞれのモチーフは作者のその時々鮮明な思い出の品でしょうか。ノスタルジーでしょうか。

だれにでもあるその時々記憶の世界に誘ってくれる作品となっています。

・埼玉県議会議長賞

「いのちの詩」
うた いけだ むつき
池田 睦月

画面いっぱいにあふれるばかりのケイトウの花。自然のエネルギーと時の移ろいでしょうか。あでやかな色彩と堂々とした立ち姿に作者の思いが良く表現されています。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「りんごのかおり」
ひらたて あきこ
平舘 明子

リンゴを持った室内の少女像。柔らかな色彩の画面の中、りんごの香りが少女の全身をつつみ、室内を満たしています。

その爽やかな香りが画面から広がり、見る者に伝わってくるような美しい作品です。

・埼玉県美術家協会賞

「bright」
すぎやま はな
杉山 花

作者と同世代と思われる人物像は、重厚な色彩と確かな構成の上に更にしっかりした描込みがされており、今を生きる若者の内に秘めた力強い姿と、真摯に生きる作者の姿が重なり伝わってくる良い作品です。

・埼玉県美術家協会賞

「宵祭り」
よいまつ なかや こゆき
中谷 小雪

厚い信仰の心が脈々と受け継がれてきた祭。邪気を払うのか豊作を願うものなのか。躍動感あふれる色彩と画面構成は、そこに集う人々の声や賑やかなお囃子がきこえてくるような力強い作品です。

・朝日新聞社賞

「やすらぎ」

きむら はるな
木村 遥菜

しっかりした個々の描写と安定感のある画面構成。何の物語でしょうか。夢・・・
それとも現^{うつ}。物語の世界につつまれた作者の想いが良く表現された作品です。

・埼玉県美術家協会会長賞

よこえ
「呼ぶ声」

のべ
野邊 ひろみ

丹念に描き込まれた渋い色調の画面は、おさえた色彩の植物とモノクロームの人物で構成されており、作者の想いが凝縮されています。

何げない日常の静かな時間、だれの声が、何の音が聞こえてくるのでしょうか。
経験と力量に裏打ちされた良い作品です。

・高田誠記念賞

たより
「音信」

かとう かづえ
加藤 佳津枝

人物を中心とした個々のモチーフが、しっかりしたデッサンに裏打ちされており、人物とそれを取りまく作者の想いが込められた空間、明るくやわらかな色彩と構成が魅力の作品です。